

広報 かみおおつ

No.78

2017年9月15日発行

編集：五中地区市民委員会文化広報部

事務局：上大津公民館 土浦市手野町3252 TEL 828-1008



王塚 后塚古墳が語る 古代の土浦

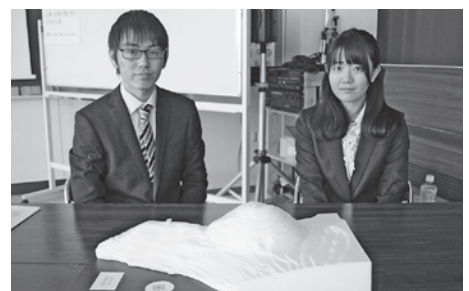
土浦・后塚古墳を調査



后塚古墳

後方部のコーナーとも思われる部分を示し、解説する滝沢准教授

王塚古墳の立体模型と筑波大学生(公民館にて展示中)



2月4日に公民館講座が開催され、74名の方が受講しました。

講師は、筑波大学考古学研究室・滝沢誠准教授、市立博物館・塩谷修副館長、筑波大学生の方々でした。

古代の歴史や古墳の役割りなどのお話から、はるかな過去に思いを巡らし、又、身近な手野町(薬王寺付近)に古代のロマンが隠されていたことにも驚きました。今後もこの調査が続き、さらなる発見がある事を期待します。

上大津公民館講座

(筑波大学社会貢献プロジェクト事業)

王塚・后塚古墳が語る古代の土浦

筑波大学 滝沢 誠

土浦市手野町の台地上に近接して位置する王塚古墳と后塚古墳は、霞ヶ浦沿岸地域を代表する大型の古墳です。両古墳については、過去にも測量調査が行われてい

ますが、筑波大学考古学研究室では、それぞれの実態をさらに詳しく把握するため、二〇一五年に王塚古墳、二〇一六年に后塚古墳の測量調査を実施しました。その結果、王塚古墳は墳丘長約八十四mの前方後円墳であることが再確認され、墳丘長約五十四mの后塚古墳は、従来の見方どおり前方後方墳である可能性が高いと判断されました。

今回の測量調査から復元される王塚古墳の墳丘形態は、長く直線的な前方部をもつ点に最大の特徴があります(図参照)。こうした特徴をもつ前方後円墳は全国的に数少なく、類似したものとしては、奈良県桜井茶臼山古墳、同メスリ山古墳を挙げることができま

す。この両古墳は、墳丘長一九〇m〜二四〇mほどの規模をもち、古墳時代前期前半においてヤマト王権の中枢を担った有力者の墳墓と考えられます。そして、これらの古墳と同じ形態をもつ古墳は主に東日本の太平洋側に認められることから、王塚古墳も「桜井茶臼山系列」の前方後円墳として位置づけられる可能性にあります。さらにその場合、同古墳の年代は四世紀前半にまでさかのぼることになります。

じつは、王塚古墳と同様に細長い前方部をもつ前期前方後円墳は、霞ヶ浦沿岸地域に点在しています。それらを一連のものとして理解するならば、その背後には当時の霞ヶ浦を中心とした有力者間のネットワークを想定することができます。また、「桜井茶臼山系列」との関係から見えてくるのは、初期ヤマト王権の東方政策において霞ヶ浦沿岸地域がとくに重視されていた可能性です。

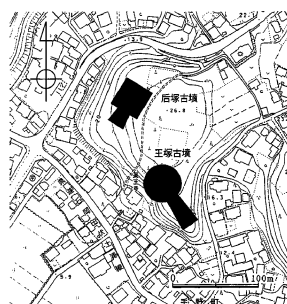


図 王塚古墳と后塚古墳の位置

古墳時代の土浦入り

八幡脇遺跡の玉作り

土浦市立博物館 塩谷 修

土浦市おつ野(旧沖宿町)の宅地造成に伴い、一九八八〜八九年に八幡脇遺跡が発掘調査され、古墳時代の玉作り遺跡が発見されています。当時の権力者が権威の象徴として、装身具や宝器として所持していた勾玉や管玉を作っていました。四世紀前半から中頃に操業され、古墳時代前期中頃の玉作り遺跡として注目されます。

土浦入りの玉作りは、とくにメノウ製勾玉生産と勾玉専用の内磨き砥石の初期の事例として注目されます。全国的にみると、これまでメノウ製勾玉は出雲地方の専売特許のように考えられてきました。しかし、八幡脇遺跡の調査成果から考えて、出現時期だけでなく内磨き砥石の利用など、技術的に見ても土浦入りのメノウ製勾玉生産は出雲に先行し、独自の生産だった可能性が高まっています。

八幡脇遺跡のメノウの原材料は、常陸北部の久慈川流域に点在する河原の転石を利用していたようです。また、内磨き砥石に使われた結晶片

岩(石英片岩、紅簾片岩)は、埼玉県西部の荒川上流や神流川上流の三波川変成帯に産出するものと考えられます。直線距離にしてメノウは約六〇km、結晶片岩は約一二〇kmときわめて遠方から入手しています。

古墳時代前期の土浦入りは、メノウ製勾玉を特徴とする玉の生産拠点となっていました。土浦入りと西日本の出雲を比較すると、土浦入りの玉作りは東日本への製品流通を目的に、大和王権の政治的意向により設置されたと推測されます。オレンジ色のメノウ製勾玉を主体とする「東の土浦入り」と、緑色の碧玉製勾玉を主体とする「西の出雲」の対比が注目されます。

内海の霞ヶ浦に面する八幡脇遺跡は、古代の大津郷に位置しています。玉作り資料の検討から、この一帯は、内外に開かれた水運の要衝として大和王権に重視され、玉の生産とともに傑出した政治拠点を形成していたと考えられます。



● : 玉作遺跡
■ : 石製模造品製作遺跡

平成28年度子ども郷土研究から
優良賞2作の内容概略を紹介

土浦全国花火競技大会

―誕生と歴史―

上大津東小学校 五年 鶴田真世

私は、毎年土浦花火競技大会を見に行きます。他の県からも大勢の人が見に来ていて、どうしてこんなに有名な大会になったのかと思いました。

(1)土浦花火競技大会の誕生

大正十四年文京町神龍寺二十四代住職・秋元梅峯師が霞ヶ浦海軍航空隊殉職者四十一人の霊を慰めようと、全国から花火師を集め、私財を投じて霞ヶ浦湖畔で大会を開きました。関東大震災で被害を受けた人々や不況の土浦を活気づけるためでもありました。

(2)現在の土浦花火競技大会

約六十業者が参加し、二万発打ち上げ、約七十万人の観客で賑わいます。

(3)立役者秋元梅峯師

第二回大会「煙火打揚番組」から。宗教的社会的事業家として活動。

(4)大会史 第七十回まで

(5)大会を支える花火師達

野村陽一氏（野村花火工業）のお話

(6)花火大会の安全対策

実行委員会事務局塙佳樹氏のお話

まとめ・感想 土浦花火競技大会は、

秋元梅峯師が市民を思いやる気持ちから始めました。その後、主催者や場所を変えながら発展して来た伝統ある大会だと分かりました。梅峯師が一人で始めたことを知り、とても驚きました。

土浦の過ぎたるものの一つ

関の鉄砲（関流砲術）

菅谷小学校 五年 川村航平

昨年、土浦に過ぎたるものの一つ「刻の太鼓」を調べたので、今年は「関の鉄砲」を調べました。

・関家の系図から、砲術開祖は関八左衛門尉之信。

・江戸時代の砲術 大筒による町打と小目当、上総久留里城土屋家に仕官。土浦が土屋藩になってからは中貫原で町打。

・継承される町打 抱え打

関家代々の修業と藩主臨席の町打土浦中貫原の町打場と常名の鉄砲塚・関家の膨大な史料は、江戸初期から明治まで二千点を超える。

感想 今回調べる前は鉄砲は戦争に使われるものだと思っていました。関流砲術は武芸として継承されてい

ると分かって驚きました。一五五年間の史料が残され、天候天災、藩主動向ほか日常生活が細かに綴られています。関家の人たちは代々まじめで几帳面だったに違いはないと思いました。第十一代関正信さんは、九十歳を超えています。長生きして関流砲術を伝えていってほしいです。



関流砲術抱え打

・上東小六年山口優一さんの3年継続の沖宿町の歴史研究は、優秀賞を獲得しています。

まちの話題

神立「はばたく商店街」

神立商工振興会が「はばたく商店街三十選」に選ばれました。「神立から元気発信！」を合言葉に地域と商店を巻き込んだイベントを開き、地域の活性に貢献していると評価されました。

一九八九年から毎年開催している「フェスティバル神立」では、二〇一五年に高校生が歌やダンスを披露する「高校生文化祭甲子園」を、昨年は地元商店と高校生がコラボしてオリジナルスイーツを開発する「クッキング甲子園」をスタートさせました。二〇一二年には冊子「神立手帖」を制作、商店の紹介・防災・生活情報をまとめて無料で配布し、インターネット上でも公開しました。「囲（い）酒屋神立ドリンクラリー」、JR神立駅一二〇周年絵画展も開催しています。

経産省での表彰式に君山会長と勝田副会長が出席し、表彰状を受け取りました。君山会長は、「お客を呼ぶための仕掛け作りがわれわれの仕事、より一層まちの活性化に寄与していく」と話しました。



表彰状を手にする君山毅会長（左）と勝田達也副会長

第28回 上天津公民館まつり

11月4日(土)～11月12日(日)

作品展出品者募集

あなたの力作を発表してみませんか？

◆展示期間 11月4日(土)～12日(日)

◆種目・規格 出品数は1人1点とします

- ・絵画 (15号 (W65・2cm×H53・4cm) 以内)
- ・書道 (半切以内／表装・仮巻き・色紙)
- ・写真 (半切以内)
- ・手芸・陶芸 (50cm×50cm以内) など

◆申込締切 10月29日(日)

(月曜・祝日および9月19日(火)・10月10日(火)を除く。)

受付時間：午前9時～午後5時

- ・作品搬入 10月31日(火)～11月1日(水)
- ・作品搬出 11月12日(日) 午前9時～午後5時
- ・作品搬出 11月12日(日) 午後3時～5時

◆申込・問合せ先

上天津公民館まつり実行委員会事務局

(TEL 828・1008 上天津公民館内)

11月12日(日)は、楽しい物があふれる！

- ステージ (五中ブラスバンド・お囃子・フォークダンス ほか)
 - 模擬店 (焼きそば・カレー・お赤飯・天ぷら・わたあめ・ほか)
 - 古本市 ●バザー ●ゲームコーナー ●もちまき ●お楽しみ抽選会
- などを予定しています。詳しくは10月中旬のお知らせで！



土浦市イメージキャラクターつちまる

五中地区の
新地区長さん
紹介

神立中央四丁目

小野 治男氏



中神立町

大矢 文雄氏



公民館新職員挨拶



公民館館長
佐野 和美

この4月より上天津公民館の館長として参りました佐野和美と申します。

館長という大役に不安ばかりではありますが、着任から約半年が経ち、周りの職員に助けられながら毎日をお過ごししております。まだまだ分からないことも多いですが、この上天津地区が安全で安心な地域、明るく楽しく過ごせる地域となるよう、そして誰もが気軽に来られる公民館運営に職員一同精一杯務めて参りたいと思っておりますので何卒よろしくお願いたします。

〈お知らせ〉

九月一日から十一月下旬まで、市立図書館は新図書館開館作業のため休館となります。この期間は、上天津公民館の図書室を是非ご利用ください。

新着図書案内

- 翻訳できない世界のことは エラ・フランシス・サンダース
 - 愛なんて嘘 白石一文
 - おしゃべりな筋肉 西川貴教
 - かぐや姫はいやな女 椎名 誠
 - 本を守るつとめる猫の話 夏川草介
 - カナダ歴史街道をゆく 上原善広
 - サイコパス 中野信子
 - 文字を作る仕事 鳥海 修
 - アキラとあきら 池井戸 潤
 - 知らなかったばかりの戦争 アーサー・ビナード
 - 家をせおって歩いた 村上 慧
 - 窓から逃げた100歳老人 ヨナソン
- 児童書も入荷しています。

編集後記

読書の秋です。新しい本も入りましたので、どうぞ、お立ち寄り下さい。



環境に配慮し、再生紙・植物油インキを使用しています。